



國學院大學 特集

神道文化学部の就職力!



もっと日本を。もっと世界へ。

今橋 晶子さん製作(神道文化学部3年・制作時)

季節の行事で



松本 菜摘美さん

神道文化学部 4年

国學院大學大学院進学予定

この学部
ならではの経験



私は神社とは関わりのない一般家庭の出身です。中高と仏教校だったことから、日本古来の伝統文化について学びたいと思い、神道文化学部に入學しました。

「大学生活の4年間で、出来る限り多くのことを学び、経験を積もう」。そう決心して、祭式サークル「瑞玉會」に入会し、日々精進してまいりました。「瑞玉會」の活動では、祭式作法だけでなく、雅楽や舞、衣紋など、神社祭祀に関わるすべての事柄をしっかりと身に付けることができました。



本学の伝統行事、観月祭では、1年次で舞楽の楽人を、2年次・3年次で「浦安の舞」の舞姫を務めました。大学に入るまで、舞を経験したことはありませんでした。はじめの頃はなかなか上達せず、とても苦労しましたが、舞の先生や先輩方、友人たちから懇ろなアドバイスをいただくことができました。おかげさまで2年間にわたって、しっかりと舞姫を務め上げることができました。



また2年次には「雛の会」の一員として、宮内庁楽部の先生方の演奏で「五節の舞」を舞わせていただきました。国立劇場での大舞台でした。あの時の緊張感や空気感、終わったあとの達成感は、今でも忘れることができません。



学部の学修では、2年次、笹生衛先生「宗教考古学」の授業で、古墳祭祀から律令祭祀への変遷に興味を惹かれるようになりました。3年次以降の基幹演習では、笹生先生のゼミに入りました。ゼミでは学界の第一線で活躍している笹生先生から、最先端の研究成果をリアルタイムで学ぶことができました。



この春からは、本学の大学院に進学します。目下の夢は、神道学の研究者となることです。学生時代の様々な経験を強みとして、日本研究に貢献できる研究者となれるよう、日々研鑽を重ねていきたいと願っております。





神光 輝紀さん

神道文化学部 3年

生涯の 「感動体験」を！



「将来、神職となって、神社に御奉仕したい…」そんな思いから、神道文化学部に入學しました。

「この学部に入って、本当によかった…」。

これまでの学生生活を振り返って、そう心から感じています。

先生方は、授業時はもちろんのこと、それ以外の時間でも、いつも優しくお声がけくださり、親身にアドバイスして下さいます。また職員の方々も、生徒が勉学に専心できるよう、手厚くサポートして下さいます。「学生ファースト」の行き届いた環境に、日々感謝しております。



全国各地から集まった学友たちとの触れ合いも、大学生活のかけがえのない彩りです。本学随一「全国区学部」ならではの、素晴らしい賜物だと思っています。

2年次の授業で、笹生衛先生から考古資料を基に古代祭祀を考えていく醍醐味を教わりました。3年次からの基幹演習では、笹生衛先生のゼミを選びました。ゼミは少人数制で、疑問に思ったことを先生にすぐ質問することができます。先生はいつも丁寧に教えてくださるので、修学意欲が愈々高まります。おかげさまで未知の領野へのチャレンジ精神をしっかりと培うことが出来たと実感しております。

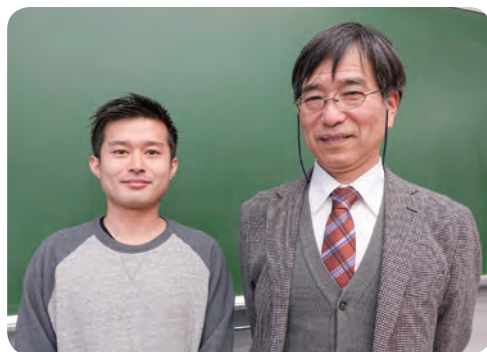


本学では、毎年10月に「観月祭」という大きな行事があります。そこでは、学友たちと共に、日々の活動の成果を、大勢の方の前で披露します。本年度の観月祭で、私は「朝日舞」を舞いました。あのように大勢の方々の前で舞う経験ははじめてのことでした。とても緊張しましたが、舞い終えたあとの達成感もまたひとしおでした。この学部でなければあり得ない、素晴らしい経験でした。



大学生活の一瞬一瞬、将来の自分の糧となるような、かけがえのない経験を積みさせていただいている…日々そう実感しています。

志願者の皆さん。この素晴らしい学部で、生涯の「感動体験」を共有しましょう！



神道文化学部の就職力



近藤 舞さん

神道文化学部 4年

株式会社京急アドエンタープライズ内定

学部の恵まれた環境に
感謝の気持ちで
いっぱいです



「どの大学を目指そうか…」そう考えていた私に、予備校の先生が、神道文化学部のことを教えてくれました。受験本番が近づく中、もともと古典好きだった私の中で、神道や日本文化を学びたい気持ちが一層高まりました。

「もうこの学部しかない!」。そう思って、第一志望で受験しました。



入学後は、驚きの連続でした。

当たり前のように思っていた神社の存在。そのバックグラウンドに、想像を超えた精神文化が底知れず広がっていました。目から鱗が落ちるような毎日でした。自国の文化、神道の精神を学ぶことで、私自身の心持ちも、世界を見る目も、大きく変化したと思います。



就職活動では、志望先を一般企業に絞りました。

「何かを伝えるような仕事、何かを発信が出来るような仕事がしたい…」そんな思いで業種を絞込みました。面接の場で、必ずと言ってよいほど聞かれたのが、この学部のことです。

神社での実習や助勤、祭式作法や装束、学部の年中行事、日本神話の神々…

他大学・他学部では到底あり得ない神道文化学部ならではのユニークな「学びと経験」。それが、面接で



のこの上ない武器となったのです。

おかげさまで、私自身もユーザーとして利用している電鉄系の広告企業から内定をいただくことができました。



卒業を前にした今、この学部、この環境に身を置けたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。入社後も心に刻んだ神道精神を忘れることなく、「広告」を通して多くの方々と関わっていききたいものと願っております。





清水 義功さん

神道文化学部 4年

株式会社JTBコミュニケーションデザイン内定

就職活動で 学部の学びが 活かしました



私は社家の出身ではありません。高校時代はサッカーの部活に明け暮れる日々でした。大学進学に際して、こう考えました。「人生はたった一度きり。そこでしか学べないことがある大学、新しいことにチャレンジできるような学部を目指そう」。

世界でただ一つの学部、神道文化学部に入学したのは、そんな理由からでした。



入学後は、文字通りゼロからのスタートでした。未知の世界だった神道の歴史はもちろんのこと、世界の様々な宗教や文化についても幅広く学びました。列島の隅々で、世界の各地で、多様な宗教や文化が息づいていることに、ひたすら目を瞠る日々でした。

3年次、いよいよ就職活動が始まります。私は、教職や神職の資格課程は履修せず、当初から一般企業への就職を目指していました。夏休み前から、目標の業種を定め、インターンや企業説明会などに足を運びました。



4年次を迎え、東京ビックサイトなどで開催されている合同説明会、個別説明会などに足繁く通い、目標の企業を絞り込んでいきました。おかげさまで、夏休み前には、第一志望の企業から内定をいただくことができました。

就職活動に入る前は、こんな心配がありました。「神道文化学部生ということが、もしかしたら自分の弱点になってしまうかもしれない…」けれどもそれは、全くの杞憂でした。神道文化学部は、わが国に1つし



かないスペシャルな学部です。かなりの確率で、どの企業でも、こう聞かれました。

「神道文化学部って、いったいどんな学部？授業やゼミで何を学ぶの？卒論では何を書くの？…」わが学部は特色ある学部なので、掘みのトピックにはこと欠きません。どの質問にも「待ってました！」のノリで答えることができました。面接は、集団面接・個別面接を問わず、他の人たちより際だった印象を残せるかどうか勝負です。神道文化部のユニークな看板は、私の就職活動の、強い味方となってくれたのでした。



4月から入社させていただく企業は、大手旅行会社の一翼を担い、プロモーション事業、コンベンション事業など、幅広い業務を行っています。私自身は、スポーツに関わるプロモーション事業に関わり、たくさんの方々にスポーツの感動、スポーツの魅力を伝えていきたいと願っていますが、たとえどの事業に配属になっても、全力で取り組んでいく覚悟です。



神道文化学部の就職力



北山 若奈さん

神道文化学部 4年

日本生命保険相互会社内定

茶道と祭式の礼節が 就職活動の 力になりました



入学前の私は、茶道に親しむ日々を過ごしていました。「茶道を含んだ日本の伝統文化を、大学でしっかりと学びたい…」そんな思いから、一般入試で神道文学部に入学したのです。



入学後は、茶道を続けると共に、神道系サークルで御神輿を担ぎました。神職課程も履修しました。とりわけ思い出深いのは、神社での実習です。3年生の夏、盛岡八幡宮での実習では、ご社頭でたくさんのことを経験させていただきました。

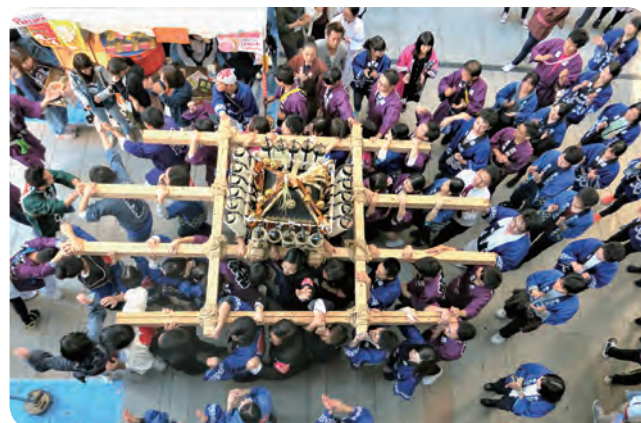
神社での助勤も、かけがえのない思い出です。御社頭を訪れる方々との触れ合いの数々は、どれも忘れ難いものばかりです。



3年次からの就職活動では、金融・生保方面を目指しました。ためらいがちな私の背中を、大学職員の方が、しっかりと押してくださったのです。

最初の関門は、SPI試験。主として数理的処理の基本を試みるものでした。続く集団面接・個別面接では、神道文化学部生であることが、大きなアピールになりました。

茶道と祭式作法で養った礼節、神社の助勤で培ったコミュニケーション力、学部の授業で得た古典の素養、ゼミで育んだ表現力…。



このどれが欠けても、内定獲得は難しかったと思います。

「さすが神道を学んだ学生さんだね」。そう仰った面接官の方のお顔が、今でも忘れられません。



目下、保険取扱やファイナンシャルプランナーの資格取得に向けて、青息吐息の日々です。

春からは、いよいよ社会人です。神道のこころを身に体し、精一杯お務めしたいものと願っております。





大堀 泰岳さん

神道文化学部 4年

株式会社オカムラ内定

部活の経験、 ゼミでの学び



高校時代、部活でラグビーに打ち込む傍ら、地元の神社の祭礼でずっと御神輿を担いできました。神道文化学部を目指したのは、氏神様のお導き、御神輿のご縁だったと思っています。



入学後は、学修と部活の両立を心がけました。部活では、ラグビーフットボール部の選手として、ひたすら練習や試合に明け暮れました。

とりわけ貴重な経験は、寮長を務めたことです。私は寮長就任後、掃除当番を全て新生に押し付けるのはフェアではないと考え、全学年の部員が持ち回りでやる体制に変えました。

当初は少し反発もありましたが、結局は皆が協力してくれました。これをきっかけとして、上級生が一層の責任感を持つようになり、部内の一体感とチームワークも高まりました。まさに狙い通りの展開で、ひとしおの達成感がありました。



学部の学修では、3年次からのゼミが懐かしい思い出です。私は藤本頼生先生のゼミに入って、地元の神社、その地域との関わりについて調べました。地元への愛着が、一層深まった2年間でした。



4年次からは、就職活動が本格化します。部活で部員約70名を束ねる寮長を務めてきた経験、ゼミで地域の信仰や文化を掘り下げた学びから、「地域の方々の暮らしをしっかりとサポートすること」ができるような業種を目指しました。

おかげさまで、その分野のリーディングカンパニーと呼ばれている名門企業から、内定をいただくことができました。



卒業を前にして、さまざまな思い出が駆け巡ります。つらい時も、嬉しい時も、大家族のような仲間とともに分かち合ったあの4年間…。

かけがえない思い出を力として、社会人としての一歩を踏み出したいものと願っております。



神道文化学部の就職力



大島 愛さん

神道文化学部 4年

銀行内定

神様がつなぐ 人と人の絆



兄が本学の学生でした。そのご縁で参観したオープンキャンパスで、はじめて神道文化学部の存在を知ったのです。

もともと日本の文化に興味があった私は、なぜか神道に心惹かれるものを感じました。

「神道は、今まで学んだことのない未知の世界。ぜひ学んでみたい…」そう考え、第一志望でこの学部を目指しました。



この4年間で、一番思い出深いのは、御神輿サークルでの活動です。様々なお祭りに参加し、地域の方々と御神輿を担ぎました。神様がつなぐ人と人の絆を、間近で体験することが出来ました。地域の繋がりは、人と人が互いに支え合うことで、結び合わされています。そのことを、いつもしみじみと実感させていただきました。



そんなわけで、3年次以降の就職活動に際しては、「多くの方々と関わることで、自らの役割を果たすことができる業種」を目指しました。私自身、大学のゼミで、サークル活動で、多くの仲間たちと触れあいながら成長してきました。社会に出たあとも、引き続きたくさんの方々と出会い、自らを成長させていきたいと思ったのです。



面接では、世にも珍しい神道文化学部の学生ということで、神道に関わるたくさんの質問をいただきました。神社について、日本の神々について、祭礼と御神輿について…。どの質問にも、自分の経験に即して、具体的に答えることができました。学部での様々な学びが、就職活動の大きな力になったと実感しています。



先般、おかげさまで第一志望の銀行から内定をいただくことが出来ました。銀行は、支店ごとにその地域の方々と密接な関わりがあります。就職後も、学部で学んだ「神道のこころ」を活かし、積極的に人と関わりながら、引き続き自らの成長を図っていききたいものと願っております。

神道文化学部独自の各種講座

神道文化学部では、就職・奉職、および就職・奉職の「その先」を見据え、素養とスキルを高めるための各種講座を開催しています。(無料)



女子学生のための
就職セミナー



マナー講座



書道講座



和歌講座



衣紋講座



田んぼ学校



御幣講座

オープンキャンパス
(渋谷キャンパス)

6月7日(日)／8月22日(土)・23日(日)／9月20日(日)

お問い合わせ：入学課 電話 03-5466-0141 ※時節柄、日程変更の可能性があり。国学院大学ホームページをご覧ください。